

天桂傳尊『正法眼藏辨注』の翻刻（二）

河 小 坂 村 機 孝 融 道

得スルヲ知レ。

大陽山楷和尚示衆、青山常運歩、石女夜生児。山ハ備ルベキ功徳ノ欠ルヲナシ。故ニ、常安住へ、常ニ運歩ナリト。常ニ安住ニして常ニ運歩ト云ヲ功夫セヨ。常ニ住メ常ニ行、是山而今山水ハ古仏ノ道現成なりトハ、太陽ノ青山運歩、雲門ノ東山水上行ハ、両古仏ノ道業現成ヘ、ともニ法位ニ住して大道究尽ノ功德成就セリ。

是空劫已前ノ消息ナル故ニ今ノ活計ナリ。朕兆未萌ノ自己ナル故ニ現成ノ透脱ヘトハ、時劫ノ遠近ナキヲ示玉フテ、汝諸人、今日、自己ノ活計ナルヲ知シメ玉フ。今ノ、活計ナリ、ノ示誨ヲ參究セヨ。

得スルヲ知レ。

大陽山楷和尚示衆、青山常運歩、石女夜生児。山ハ備ルベキ功徳ノ欠ルヲナシ。故ニ、常安住へ、常ニ運歩ナリト。常ニ安住ニして常ニ運歩ト云ヲ功夫セヨ。常ニ住メ常ニ行、是山ノ功徳ナリ、審細ニ参考セヨ。但山ノミニ非ズ、常ニ住メ常ニ往カズト云ヘナク、常ニ行テ常ニ住セズト云ヘナキモノヲ知ル、是參禪ノ要道ナリ。

山ノ運歩ハ、人ノ運歩ノゴトクナルベシト、皆ナ人ゴトニ思フ。人間ノ行歩ニ同じく汝ガ眼ニ見ヘザレバトテ、山ノ運歩ヲ勿レ疑。譬如^{アラヒ}三仏常在此説法、顛倒衆生^{ハノニ}眼前雖近而不^レ見。

山ノ諸ノ功德、高廣ナルヲ以テ、乘雲ノ道徳、必山より通達ス。順風妙功モ、定テ山ヨリ透脱スルナリ。是レ、山ヲ以仏事ヲ作シ玉フ。老僧ハ又道フ、恁麼ノ道徳妙功、豈自山可^{シヤ}通達^ス。灯籠・露柱ヨリ通達シ、透脱シ、自己脚跟下ニ透

僧、前ニ云トヨリ、住メ行キ、行テ住ス。是本得不動ノ妙徳故、是ヲ運歩故ニ常ナリ、トノ玉ナリ。

青山ノ運^(マ)ヘ歩脱カレ、其レ疾^ク如^{ヨリモ}風速カナレバ、山中ノ人ハ不覺不知。此ノ不覺不知ハ、例セバ、共ニ住メ不^レ知^レ名意旨^ヲ。山中トハ、世界裡ノ花開ナリ。般若多羅付法ノ偈ノ意、花開世界起、是山中^ヘ。山外ノ人ナリ。此山外ノ人ト云ハ、移諸天人置於他土ノ人ノ^フゾ。山ヲ見眼目アラザル人ハ、觸目ニシテ不覺不知ニシテ、這^レノ道理ヲ不^レ見不^レ聞ナリ。若山ノ運歩ヲ疑着スルハ、自己ノ運歩ヲモ未^レ知ナリ。道甚麼^ト。汝等耳側テキケカシ。自己ノ運歩不^レ無、自己ノ運歩道未^レ知ナリ、未^レ明ナリ。自己ノ運歩ヲ知^レガ如キ、當^レ知^レ青山運歩。青山已非^ニ有情^ニ、非^ニ非情^ニ、自己モ亦尔^ヘ。故ニ今、青山ノ運歩ヲ疑着セント、不可^レ得キコヘタ。

今、法界ヲ量局トシテ青山ヲ照鑒^{カン}スベシト不^レ知。青山ノ運歩及自己ノ運歩、明カニ^チ検^{スル}ベシ、点アルベシ。イカントナレバ、

未朕兆ノ正當恁麼時、及空王那畔ヨリ進歩退歩三、運歩且^クモ不^レ休、檢點スベシ。下、キコヘタ。此山ノ進歩退歩ノ功德ヲ、山流トシ、流山トス、ト。山流々山ハ、上下五回ノ語^ズ。

青山も運歩ヲ參学し、東山も水上行ヲ參学する故ニ、此參学ハ山ノ參学ナリ、山ノ身心ヲアラタメズ、山ノ面目ナガラ回

途參学し來レリ、ト。此語、難見。青山も運歩ヲ參学、東山も水上行ヲ參学す。汝・諸人ノ參学ニハ非ズ。此參学ハ、直ニ山ノ參学ナリ。故ニ、山身、山ノ面目ニして回途參学し來レリ。古仏ノ此言句、容易ニ見マジキゾ。山是什麼物カ恁麼シ來ヤ、ト挨点シテ見ヨ。回途ノ字モ心アリ、イヅカタヘ回ル寸^(時)ノ途デア郎カ。徹骨徹髓、參究スペシ。如是ナルヲ不曉會、常見妄想メ、青山ハ運歩シ不^レ得、東山ハ水上ニ行不得ナリト、山ヲ誹謗スル^ヘナカレ。低下ノ見処、イヤシキ故ニ、青山運歩ノ句ヲアヤシミ、少聞、ツタナキニヨリテ流山ノ語ヲ驚クナリ。

可知、コ、ニ須弥ノ芥子中ニ運歩スルヲ見ルヤ。加之、案山跳^テ汝ガ鼻ノ孔ニ運歩スルヲ知ヤ。阿呵^ヘ。現前水ノ流ル、ト云言モ、七通八達ニ無碍ニ轉ハ外ストイヘバ、小見・小聞ニ沉溺セラレテ、水ハ流ル、山ハ歩行セヌト思ヘルナリ。しかあれば、只今山水所積ノ功德ヲ拳セルヲ以テ形名トシ、命脉トセリ。コ、ニ運歩アリ、流行アリ。山ノ児ヲ生ズル時節アリ、何レノ時ナランカ。柏樹子入^ニ地獄^ニ節ナリ。山ノ仏祖トナル道理ニヨリテ、仏祖、如是出現セルナリ。是モ、何レノ時節ゾ。汝咬^カ破^{スル}鐵^{スル}櫃^子、同日ノ^フナリ。タトイ草木・土石・牆壁ノ如キ無心ニ見ル^ヘ現成スルノ眼睛アラン時モ、疑ニタラヌ^ヘ、一点モ動着スルナシ。全現成トスルニ非ズ。たとい七宝莊嚴ナリト見ル^ヘ時節現成スルモ、実^ニアラ

ズ。諸仏行道ノ境界と見ル。現成アルモ、アナガチ愛処トスルニアラズ。諸仏不思議ノ功德ト見ル。現成ノ頂顙ヲ得ルモ、如実是ノミニ非ズ。如レ是各々ノ見成スルハ、各々ノ依正二報ナリ。是等ヲ仏祖ノ道業トスルニ非ズ、一隅ノ管見ゾ。轉心轉境ハ大聖ノ呵玉フ處、説心説性ハ仏祖ノ不_レ肯處_ロ、見心見性ハ外道ノ活計ナリ、ト。如是アルハ、此公案ノ現成ヨリ見レバ如是ナリト。是宗乘ノ示誨モ、見心見性、外道ノ活計トアルヲ以テ、四禪比丘篇ヲ添入スルニ、是等ヲ取テ書ケル、筭沙ノ盲僧ノ所為ナリ。若シカラバ、コ、ニ説心説性ハ仏祖所_レ不_レ肯アルニ、別ニ説心説性ノ篇ヲ出シ玉フ。其中ニ、大惠ノ説心説性ヲ嫌_(マ)破斥シ玉フ。正法眼藏ハ、對機ノ垂示、有時ノ説法ナリ。説心説性ト云ト、見心見性ト云、説ノ字ト見ノ字ト、優劣如何ン。別食ノ、別粥ノ、トアルトハ、イヅレゾ。目アイテ見ヨカシ。不便_レ。

滯句滯言ハ、解脱道ニ非ズ。如是ノ境界ヲ透脱セルアリ。所謂、青山常運歩、東山水上行ナリ。審細參究スベシ。

石女夜生児ハ、石女ノ生児スル時ヲ夜ト云トハ、夜半正明、天曉不露ノ時_ヘ。又、明ニ皎潔、暗ニ流注_ビ云。唯獨自明、餘人不見ノ処ゾ。石女ノ生児ハ不生之生ヲ明ス_ヘ。大凡、男石・女石あり云云。しるところまれなり。万物自有功、當言用及処ノ參同契ノ文ノ意旨ゾ。生児ノ道理、可知。生児ノ時ハ、親子並ニ化生スルカ。児ノ親トナルヲ生児現成ト參学ス

ルノミナランヤ、親ノ児トナル時、生児現成ノ修證ナリト参考スベシ、究徹スベシト。

児ノ、親トナリ、親ノ、子トナルト云ハ、イカソ。例セバ、曹山所謂、正中偏者、背_{ステ}理就_レ事_ニ。偏中正者、舍_レ事入理、臣向君、是偏中正。君視臣、是正中偏。蓋君臣・親子ハ、吳事同義也。ナニヲ君トシ、臣トス。ナニヲ親トシ、子トスルヤ。支那・日域ノ人師、只的意モナク、君臣功位、親子偏正ヲ法トナシテ、サマ_ムニ_ニ吳解ス。別メ永覺ノ儒僧、古轍、尽ク誤ルノミ。真參ノ學人、不隨他去。

曹山、僧問、子_ハ就父_カ為_レ什父全不_レ顧、師曰、理合如是。曰、父子之恩、何在。師曰、始成父子之恩_{ニカ}。曰、如何是父子之恩。師曰、刀斧斫不開。是等公案ヲ以テ見ヨ。

雲門匡真大師云、東山水上行。此道現成ノ宗旨ハ、諸山ハ東山ナリ、一切ノ東山ハ水上ニ行_ヘ。故須弥ノ九山等現成セリ、修證セリ、是ヲ皆東山ト云、ト。山トシテ山ニアラズト云_ヘナキガ故ニ余、ナリ。

しかあれども、雲門いかでか東山ノ皮肉骨髓、修證活計ニ透脱ならん、トアル。是も、写誤ナラン。イカデカ透脱ならん、トアツテハ聞ヘヌ。雲門大師、東山ノ皮肉骨髓、修證活計等ニ透脱なくして、東山水上行ト云レンヤ。然バ、是も、イカニトカ透脱ナカラシヤ、トアリテヨシ。しかあれば、ノ言葉も、しかれば、にて好シ。

いま現在太宋國ニ杜撰ノヤカラ一類あり。今ハ彼等群ヲナセリ。小実ノ擊不能ナル処、小機巧ノヤカラナリ。彼等曰、今ノ東山水上行ノ話、及南泉鎌子話ノ如キ、無理會話ナリ。其意旨ハ、モロ々ノ念慮に拘レル語話ハ、仏祖ノ禪話ニ非ズ、無理會ノ話、是仏祖ノ語話ナリ。故ニ黃檗ノ行棒、林才ノ拳喝、是等、理會難及、念慮ニ拘レズ。是ヲ、朕兆未萌已前ノ大期時節トスルナリ。先徳ノ方便、多クハ葛藤断句ヲ用ルト云ハ、無理會ナリ、・――畜生ヨリモ愚カナリ、ト。

是、老僧が常ニ云、一物相似ノ似セ仏法ノ禪師比ノ云フ、雲

棲・永覚ノ類、其已前ハ、三百年上、大惠・虛堂・中峰類ノ人師、近日吾朝ノ文字ノ儒僧ノ云フナリ。古仏ノ此語ヲ、欽

デ諦聴セヨ。ナゲカハシイフカナ。無理會ニシテ手ノツカヌガ禪語ナラバ、籠昇・座頭ノモサ（注、もさヘ土氣）、田舎者。閑東者。罵ル語カ）トヤラ云コロリ（注、錢百文ノ隱語カ）サイナン、是祖門ノ活句カ、サテ々アサマシイフカ

ナ。已ニ教乘ニモ、治生産業ノ語句、實相ニ違背セズ、一切衆生ノ語句、皆是如來ノ語ナリ、トアリ。可憐、音声三昧ヲ

不知、禪門ノ云フハ、別ニ在リト思フ。胸中、不便ノツカナ。如來無^{キヲ}二種語^ノ知^メ。永平古仏上堂ニ、口与心相乖、

ト罵責ナサル、モ、コ、ノツヅ。惣而今マノ禪師ハ、鉄櫬^{ケツ}子、言語道断、手が付ヌト云テ、ナニモカモ、ヤタラニ断空ノ糞坑裡ニ掃キ込ンデ知識ヲ立ル故、一則ノ公案ニテモ真実

参不徹ナルフ、笑倒スルノミ。天下ノ師学、此坑ヲ出不得。故ニ永平古仏ノ、学仏道ノ畜生ヨリモ愚ナリ。呵責ナサル。可耻而可耻也。

禿子が云、無理會ノ話、汝ノミ無理會ナリ。仏祖ハ不専。汝ゴトキ盲目ニ理會セラレザレバトテ、仏祖ノ理會路ヲ參学セザルベカラズ。此故ニ、傳灯九大慈山寶中禪師ノ曰、説得一丈、不如行取一尺、説得一尺不如行取一寸。是今時人師比ノ見解ニ相似タリ。為你道、何云説取、何云行取乎。不可依文解義、須子細。

洞山和尚、聞寰中語云、我不恁麼道、説取行不得底^フ、行取^{セント}説不得底^フ。老僧曰、誠哉此言也。

雲居曰、行時無説路^フ、説時無^二行路^フ、不説不行時合^二行^フ什麼路^{ヲカ}。老僧曰、牙齒帶生波。

樂普曰、行説俱到、即本事無、行説俱不到、即本事在。老僧曰、在与不在、令人鈍滯。

此四則ノ公案ヲ看取セヨ。就^レ中、洞山師翁ノ公案、殷勤ニ審參セヨ。

仏祖ノ理會路トハ、ナニツヅ。青山ノ運歩、常不休、東山ノ水行、長ヘ三縱横。汝ガ東廊ニ運歩シ、西廊下ニ水行スル、是ヲ知ヤ。尚鼻孔ヲ以テ不喫飯。

たとい十（注、「畢竟」ノ略符号）無理會ナルベクハ、汝ガ今云無理會ナリト、理會も當ルベカラズ。汝がしか云如キ

ノ類ヒ、宋朝諸方ニ多シ。眼ノアタリ見聞せシ処ナリ。可レ哀、彼等、念慮ノ、語句ナルヲ知リテ、語句ノ、念慮ヲ透脱スルヲ不レ知。古仏密語篇ヲ参ソ看ヨ。次ハキコヘタ。

此東山水上行ハ、仏祖ノ骨髓也。諸水ハ東山ノ脚下ニ現成スル故ニ、諸山、雲ニノリテ天ヲ歩ム。諸水ノ頂顙ハ、諸山ナリ。向上眞行ノ行歩、汎ニ水上ナリ。諸山ノ脚尖、能諸水ヲ行歩シ、諸水ヲ躍出セシムル故ニ、運歩七縱八横ニ自在無碍也。如レ此ナリ（ト）イヘビ、此道理ノ修證ハ不レ無。其ノ修證ノ道理ハ、

水ハ強弱ニもあらず、湿乾ニもあらず、動靜ニもあらず、冷煖ニも、有無ニも、迷悟ニもアラザルナリ。此水、疑^{ヨリ}テハ金剛ヨリも堅ク、誰カ是ヲ破ラン、融じてハ乳水ヨリモヤハラカナリ、誰カ是ヲ破ラン。しかごとくあれば、今マ云處ノ現前所有ノ水ノ功德ヲアヤシムアタハズ。且ク、十方ノ水ヲソノマ、十方ニシテ着眼看スベキ時節ヲ、參学すべし。人天ノ、水ヲ見ルノミノ參学ニアラズ。

上ニ示誨ナサル、水ハ、ナニ水ニテカアルラン、參究して見ヨ。曹源一滴水^云ベキカ、古潤ノ寒水カ、イカン。

サテ、水ノ水ヲ見ル修證アリ、水ノ水ヲ修證スルガ故ニ、水ノ水ヲ道着スル參究アリ。此ノ水印三昧、自己ノ自己ニ相逢スル通路ヲ現成せしむべし。他已ノ他已ヲ參徹する活路ヲ進退すべし、跳出スベシ。

大凡、山水ヲ見ル^一、種類ニ隨て不同あり。所謂、水ヲ瓔珞ト見ルあり。然共、瓔珞ヲ水ト見ノ類ヒナシ。今、人界ノ我等ガナニト見ル形ヲ、彼ハ水トスラン。彼ガ瓔珞ハ、我レ水ト見ル。水ヲ妙花ト見ルあり、然共、花ヲ水ト用ルニハアラズ。鬼ハ猛火ト見、濃血ト見ル。龍魚ハ宮殿トミル、樓臺トミル、七寶摩尼珠トミル、樹林牆壁ト見ル。或ハ清淨解脱ノ法性ト見ル、或ハ真実ノ人体トミル、或身相・心性トミル。人間、是ヲ水トミル。殺活ノ因縁ナリ。此水、殺^レ人活^レ人スル因縁モアリ。

已ニ隨類ノ所見不同ナリ。且ク是ヲ疑着スベシ。水ノ一境ヲ見ルニ、龍魚ノ類モ、諸相シナぐナリトヤセン、諸象ヲ水ノ一境ナリト誤錯セリトヤセン、功夫ノ頂顙にも更ニ工夫スベシ。然バ則チ、修行・辨道も、一般・両般ナルベカラズ、究竟スル境界も、千種万般ナルベキ也。水ノ一般ヲ以テ可知矣。

更ニ此宗旨ヲ憶想スルニ、諸類ノ水、タトイ多シトイヘビ、本水ナキガゴトシトハ、我等ガ水ト見ルヲ、諸類ノ見様サマ^一、瓔珞^云宮殿トモ、花^云、火^云、其品多シトヘビ、其中、本水ト云物ハナキガゴトシ。水ト見ガ本相カ、宮殿ト見ルガ本相カ。シカレバ、本水モナキガゴトシ。諸類ノ水ト云モ、イヅレガ水ノ本相カ。是モナキガゴトシ。一切諸相非相ナルガ故ゾ。

シカアレ^也、隨類ノ諸水ナキニハアラズ。ソノ諸水、其レ心ニ不^レ依、身ニ不^レ依、業ヨリ生^ゼズ、依自ニアラズ、依他ニアラズ。依水ノ透脱、水ノ如是実相アリ。ソノ相イカン。水ハ地・水・火・風・空・識等ノ六大ニアラズ、水ハ青・黄・赤・白・黒等ニアラズ、色・声・香・味・觸・法ニアラザレ^也、地・水・火・風等ノ水、自現成セリ。如是則、而今、人間ノ国土・宮殿、ナニモノ、能成・所成トアキラメ云ン^テ、

カタカルベシ。俱舍等ニ云、空輪・風輪ニカ、レルト道着スルハ、我ガマコトニハ非ズ、他ノマコトニハ非ズ。小見ノ測度ヲ以擬議スルナリ。カ、レル處ナクバ住スペカラズ、トヲモフニヨリテ、道著スル^ヘ。

仏言、一切諸法十^ト解脱、無有所住、ト。可知、無所住解ニして繫縛ナシトイヘ^也、諸法住法位、如是相・如是性・体・力・因縁・實相ナリ。

然ルニ、人間ノ水ヲ見に、流注して不留と見ル一途アリ。其ノ流ニ多般アリ。是、人見ノ一端なり。いはゆる地ニ流通シ、空を流通し、上方ニ流通し、下方ニ流通す。一曲ニも流れ、九渦ニモ流レ、のぼりて雲ヲなし、下りてふちをなす。文字ノ語、キコヘタ。仏祖ノ児孫ト称ン輩、俗ヨリモくらからん、もとも可^レ耻。水ノ不知覺ニアラザレ^也、水、よく現行する^ヘ。

上^ヘ天為雨露となるといふ。可知、水ハ幾許ノ上天上方へも

のぼりて雨露ヲナス。雨露ハ又世界ニ隨て品^ヘなり。水ノ不^レ到處アルト云ハ、小乘・^タ(声聞)教なり、外道ノ邪教^ヘ。水ハ火焰裏ニもいたる、心念思量分別裡ニもいたる、覺知仮性裡ニもいたるなり。故、楞嚴ノ第三下ニ、汝尚不^レ知^下如來藏中性水、真空性空、真水清淨本然、周徧法界、隨衆生心、^{スル}^上所知量^ニ云云。下ニ。

もし傍観ありて、汝ガ宮殿ハ流水ナリト為説せん時ハ、我等ガ今ノ山流ノ道着ヲ聞著スルガ如ク、龍魚、忽ニ驚疑スベキナリ。さらに宮殿・樓閣ノ欄楯・露柱ハ、如^レ是説着ありと保任することもあらんトアル。アマリ丁寧なル示誨ナリ。宮殿ハ、流レザルガ宮殿ノ欄楯、露柱ノ類ハ、流ル、ト説着スルゴトクナル^ヘモアラント、傍観ノ云ニ任スル^ヘモアラント^ヘ。トカク、龍魚ノ宮殿ハ流水ナリト云バ、龍魚、驚疑せんト云マデニテスム^ズ。人間・龍界ノ所見ノゴトクナル、此料理、静カニ憶イ来、思もて行クベシ。シカルニ、此辺表ニ透脱ノ道理ヲ学セザルハ、凡夫ノ身心ヲ解脱せるニ非ズ。下ニ、海ノこころ、江ノこゝろトアル心ト云ハ、江河ノ深キ処ヲ心ト云^ヘズ。

仏道ノ水ヲ参考すべしトハ、性水アリ。心水アリ、性空ノ真水アリ、一滴水アリ、ト可^レ知^ル。

不流ノ憶想、及不流ノ知見も、龍魚ノ知見ト一齊なるべから

す。是写誤アリ。龍魚ノ知見ト一齊ナルベシ、トナケレバキコヘヌ。前ミノ文義ヲ照看セヨ。

人天の、自界ニ処ヲ得ル、他類、是ヲ疑着し、或ハ疑着ニ及ず。

是も人間ノ自界トアリテ好シ。人ト天ト、水ノ所見、相違アリ。然バ、山ヲ見ルモ難計。同じ人間の自界ニ処ヲ得ル中カノ他類ノ人、山流ヲ疑着スル多ク、又一向、ココロヲ付ズ、疑着ニモ及ヌアリ、會疑着ニ及ヌモアリヌベシ。しかあれば、山流ノ句ヲ仏祖に学して、自己ノ驚疑ニ任スベカラズ。拈一ハ、是流ナリ、拈一ハ是不流ナリ。一回ハ流ナリ、一回ハ不流ナリ。此參究ナキガ如キハ、如來ノ正法輪ニ非ズト。拈一ノ語、難見。辨取スレバ、山流ノ句、仏祖ニ学する、仏道ノ一边ヲ拈ズレバ、是山流也。人間驚疑ノ一方ヲ拈ズル時ハ、是山不流也。如レ是一回ハ流、一回ハ不流。此道理ヲ參究シテ、両手全提ナキガ如キハ、如來ノ正法輪ニハ非ズ、トナリ。

こノ道取ヲ、皮肉骨髓・身心依正・空色・樹石・田里ニ銘セヨ、トハ、一切処ニ他ナカルベシ、トヘ。

大凡山ハ國界ニ屬セリといへどもヨリ下、キコヘタ。しるべし、山ハ人間ノ境サカヒニ非ズ、上天ノ境イに非ズ、人慮ノ測度ヲ以山ヲ知見スベカラズト。是什麼ノ境界ノ山ゾ。一足垂下坂南岳住山モ此山ゾ。獨坐雄峯モ、居ルニニキ山好山モ、皆

是也。雲門ノ所謂、遊山覩水、又云須弥山、長沙遊山せしも此山。彼ノ雪豆云、妙峰孤頂草離々、拈得分明付与セシニカ誰一ト、諸人有レ分也無。

もし人間ノ流ニ比準セズバ、誰カ山流山不流ヲ疑着セン。皆、自ノ所見ヲ亡セザレバナリ。

しかあれば、水ハ是真龍ノ宮殿ナリ、流落ニアラズ。流ノミニアリト認ズルハ、流ノ言バ、水ヲ謗するナリ。たとへバ、非流ト強為するが故ニトアル。難見。是ハ、前ノ、青山運歩不得ナリ、東山水上行不得ナリと、山ヲ誹謗スルヲナカレ、低下ノ見処イヤシク、少聞ツタナキニヨリテ、流山ノ語ヲ驚クナリ、トアリシヲ以テ可レ見。心ハ、此ノ水ノトモ、山ノトニたとへバ、己が所見ヲ以テ山ヲ非レ流ニミ強為シ認ムルハ、山ヲ謗ズルト云フガゴトク、コ、デモ水ヲ流ル、トノミ認ムルハ、水ヲ謗ズルナリ、ト云ノギヘ。文、簡孤ナル故ニ見ニクシ。心ヲ以テ見ヨ。たとへバ、非流と強為スル故ニ、トルヲ、たとへバ山ヲ非流と強為スルガゴトクナルガ故ニ、トアリテ好シ。

水ハ水ノ如是実相ノミナリ、水是水ノ功德ナリ、流ニアラズ。一水ノ流ヲ參究し、不流ヲ參究するニ、万法ノ究尽、忽ニ現成するなり。水ヲ流レトミノ見ルハ、人間ノ一所見ゾ。水、元ヨリ流ニアラヌト知レバ、一切諸法ノ究尽現成スルヘ。彼ノ、橋ハ流テ水ハ不流、モ是ナリ。

古人云、山是山、水是水。この道取ハ、山是山ト云ニ非ズ、
山是山といふなりトハ、嶺南人無仏性ト云ニ非ズ、嶺南人仞性なきなりトアリシ意ゾ。

然アレバ則、山ノ参究すべし、山ヲ参究すれば、山ニ功夫あり、如是ノ山水、ヲノヅカラ賢ヲなし、聖をなすなり。

サテ此両公案落着如何。青山常運歩。「二字靈損白石」夜生児ヲ、古仏ノ上堂ニ、但見青山・——誰知白石夜生児トナサレタ。但見誰知ノ四字ニテ、此ノ両句、七通八達ナリ。常ニト云字、夜ト、云字、参究ノ眼目也。ナント、山運歩シ、石生レ児ト、古汝諸人ノ目ニ見ヘマイヨ。シカレビ、古仏ハ、但見青山常運歩ト示サル。下ノ句ヲ、誰知シ、知ル人少カラシ、トナリ。山ノ運歩ヲ見バ、石児ヲ誰カ知ザランヤ。ナントメ恁麽ナルゾ。速道々々。運歩スルハ山カ。生レ児ヲ石。是カラサキハ、云ヌガ参究ノ様子ゾ。

諸仏出身ノ処、東山水上行。ナント、山ノ、水上ヲ行レ知タラバ、諸仏ノ出身現成スベシ。但、流ル、ハ水トノミ見聞シテ、山ノ流ル、アルヲ知ラザルハ、ナニ故ニテア郎カ、諸仏出身ノ処ヲ不知故ゾ。諸仏出身ノ境界ヲ知タラバ、東山、水上ニ行レ可レ見。東山、水上ニ行ヲ見タラバ、諸仏出身ノ地ヲモ可知ノミ。目アイテ見ヨ。

十方仏土中者法花の唯有なり。

此語ノ、審細参究セヨ。十方仏土ニメ更無他土ことハ、是法花ノ唯一乗ノ法なり。然ルニ、天台ノ愚僧等、日蓮ノ盲僧等云、法花經ノミ仏ノ本懷、余前ノ經ハ施權ノ方便經なり。故ニ餘經一偈ヲマジヘズ、四十九年未顯真実、ト説ケリ、ナド云テ邪語ス。可笑、其愚ナルヲ。唯有一乘ニメ餘乗ナシト説玉フハ、七軸ノ經文ノフト思ヘルガ、法花會ニして仏知見ヲ開テ仏眼ヲ以テ見ルキハ、一色一香トして一仏乗ノ法ニアラザルナシ。治生産業、ミナ實教ニアラズヤ。十如是トハ、ナニノケゾ。一切哥哭笑談、是法花ノ唯有く。何處ニカ餘經ノ一偈ヲマジエン。四十九年未顯真実、ト云フヲ知ラズ、愚之愚者也。法花モ、四十九年ノ内ニアラズヤ。但シ、法花八年ハ仏ヶ那裡ニ在テ説法し玉フヤ。只、文義ノ上サヘ見分ツアタワズ、他ヲ誹謗スル、皆、天魔ノ所解ナリ。此事ハ且置ク、法花八年ノ説相、アルイハ仏ノ説法四十九年ト思ヘル、是、未顯真実ノ妄解也。出現於世、出現於此、常在此説法、常轉法輪ヲ不聞。如是ナル則トキハ、四十九年ハ且止ネ、五百塵点、劫未顯真実ナリ。如來久遠成仏五百塵点劫ノ義ヲ不レ曉サモ亦復如是。謝三郎不識四字、可哀哉。

第十二 轉法花篇

近代、鳳潭ト云瞎禿子アツテ、花巣ノ円理ニ不及、餘經ハ藏通別頓始終ノ教ナリト云ヘルヲ、吾門ノ瞎漢共、相聚テ是ヲ敬フ、悲哉。圓ノ字ノ字義ダモ知ラズ、唯有ト云モ、唯圓ト云モ同ジ。若圓ノ外ニ嫌底ノ法アラバ、汝が誇言スル所ノ円、スナワチ圓ニアラズ。彼外道ノ、我レ一切ノ論義ヲ破ント誇言して、後ニ、己レカ言語モ一切ノ門ナルヲ知テ、己ト、非ヲ知リ、仏法ニ皈セントヲ聞キタルガ、唯一ノ外ニ二ナク、唯圓ノ外ニ偏ナキヲ知ラデ、愚人ヲ惑シ誑カス、浅マシキトカナ。圓ハ周也、全也ノ字訓ヲ不知乎。鳳潭ノ鳳ノ字、固凡鳥ナリト云シテ、汝カ實錄ナラン。華仏（嚴）三無差別、無碍法界ノ無碍ノ字義ダモ不知。暗昧ノ愚見ヲ以テ、祖師門中ノトヲ判釈スル、盲ラノ蛇ヲ恐ザルニ同ジ。一則ノ公案ニテモ參究スルヲナクシテ、禪語ハ、終教・頓教ニシテ円理ニ不^レ通、ナド謬言スル、我慢ノ愚ナリ。花仏（嚴）一經ノ文義モ、其ノ正義ニ不^レ通邪解スルハ、可哀哉。

本行卉（菩薩）道ノ不退不轉也。諸仏智惠甚深無量なり、難解難入の安祥三昧なり。

本行ノ字、着眼セヨ。何ノ時ノ本行ゾ。多クハ、久遠実成ノ尚已前ノ本行久メ、尚久キトノミ云ルハ、法花久遠実成ニモ不^レ通なり。本行ノ時節ハ、是這ノ有時ノ今日なり。是本行、ト云テ、始行アルニアラズ。此等ノトハ、始・本ノ夢醒メザル教者坊ノ、義解スル所ニ非ズ。汝ガ自心、有^カ本、有^カ

始、退カ轉ズルカ。肇師ガ所謂、雖本迹殊而不思議一也、ト云ニ依テ、天台本迹二門ヲ以テ解スルト云ヘモ、唯義理ヲ分別ス計度ノ識情ナリ。今日發心スル、是自心ノ始メニシテ、始メニ始メナク、久遠已前ニ本行アル、是自心ノ本所ニシテ、本ニ本所ナシ。然モ、本モ一時有時く、始モ一時有時ナリ。サテ、法花ニアル、我成仏已來壽命無量^{ニシテ}不滅トアレバ、今日ニ到テ不滅ナリ。然ルニマタ、我本行卉（菩薩）道ノ壽命今猶未尽トアル。本卉（菩薩）道ノ壽命ト、成佛道ノ壽命ト二種アツテ、不滅不尽ナルガゴトシ。此義、和會スル經論師ナシ。宗門中ノ人師モ、亦余學人、イカンガ通ン。此法花轉々法花ノ永平師正法眼藏ヲ熟參セバ、モシ知トアランカ。彼忠國師ノ、長耳三藏、老僧即今在何處ノ問着モ、此事ナリ。前ノ有時ノ篇ノ心ヲ以テ審詳參究セヨ。有時ノ眼目ナクンバ、イヅクンゾ這ケノ時節ヲ究メンヤ。此等ノ事ヲ、諸仏甚深無量氏、難解難入氏、安詳三昧氏云。仏・衆生ノ智ニ、深淺アルニ非ズ。可解可入ノ法ナシ。如是ト云ヘモ、為^{ニカ}レ誰隔碍セラレテ陸沈平地邪。

あるひハこれ文殊師利仏としてハ、大海ノ仏土、唯与仏ノ如是相あり、あるひハ尸迦牟尼仏としてハ、唯我知是相、十方仏亦然なる出現於世あり。すなわち我及十方仏乃能知^リ是事、一切衆生をして開示悟入せしむる一時なり。あるひハ普賢なり、不可思議の功德なる法花轉を成就し、深大久遠なる

阿耨井（菩提）を閻浮提に流布せしむるに、三草二木、大小諸樹を能生する地へ、能潤スル雨なり。心ハ、辨ニ不^レ及、明カ^ヘ。就^テ中、普賢なりノなりノ字ハ、衍字ナラン。普賢としてとあれば、上ノ文殊・尺迦ノ句ト連続してヨシ。只、普賢不可思議ノ功德トアリテ聞ユルゾ。是ハ、法花轉ヲ所不能知なる衆生に、普賢尽行成就なるのみ。

心ハ、十方仏土中唯有一乗法、無二亦無三ノ法花轉、迷悟、凡聖隔別ナキヲ明玉フ。深大久遠なる阿耨トハ、普賢深大久遠なる無上井（菩提）心ヲ、此閻浮ニ流布シ勸發して、今ハ三草二木、大小諸樹、能生メ無餘ニ到ル。是法花轉を、所不能知ノ衆生ニ、普賢として尽行成就せしむなるのみ。法花ノ如來久遠成仏ノ義ヲ審カニ參究スベシ。五百塵点劫ト云ヘバ、久キ^ヲトノミ思フ。假令、五百塵点ハ、且置ク、千万塵点ト云氏、数量ヲ云フベキハ限量アリ。深大久遠ト云ハ、本時・無時ノ成仏ヲ明ス。遠近ノ遠、小大ノ大、深淺ノ深ニハアラズ。故ニ、本行井（菩薩）道ノ壽命、今猶未^レ尽、トノ玉フ。成仏ノ日ト、行井ノ日ト、同カ別カ。教乘ノ始覚・本覺ノ義モ如是。始モ時也、本モ時也、久遠モ今日なり、今日モ時也。是什麼ノ時ゾ。時是什麼ノ久近カアル。是、有時ノ篇以テ見ルベシ。這寸ノ時節有ルヲ知ラバ、云ズシテ曉セン。

次下云、普賢ノ流布、おわらざるに、靈山の大會来ル。普賢

ノ東方宝威德上王佛國アリ、往来スル、是ヲ尺尊、眉間白毫光と證明シ、尺迦ノ仏會、いまだ半にあらざるに、文殊ノ、我見灯明本瑞、如此。今、仏放光明助發實相義ノ惟付、速力ニ弥勒ニ授記スル法花轉なり。おわらず、なかばにあらず、速カニ授記するノ詞ハ、法花轉ノ義ヲ明ス。故ニ、前後不了半提、都テ法花轉ノ常轉法輪ナリ。故ニ下ニ云フ、上ニ所レ云普賢ト諸仏ト文殊トノ大會氏ニ、初中後善ノ法花轉ヲ知見波羅蜜なるべし、と。実ニ、古仏ノ回互ノ言辭、別人ノ及トコロニ非ズ。精細ニ翻覽セヨ。

如上ナル故に、法花會ハ、唯有一乘、為一大事因縁ヲ以、出現於世なり。此ノ出現、即生仏ノ一大事ナル故ニ、唯仏与仏、乃能究尽、諸法實相なり。唯仏与仏ノ言バ、諸宗ノ瞎老奴、不辨肯、只此ノ町ハ、仏ト仏トノミ究尽ノ地ニテ、各々我等ノ凡夫未到ノ知ルニアラズ、ト云テ、高ク諸仏ニ靠倒メ、己ニ分ナシト思ヒ、唯、仏、元ト非^ヲ他人^ニ不^レ知。法花大師ト云ハル、智者ナドモ、吾ハ只滅後ノ五品ノ位ナリト云、淺間敷見解ナリ。吾門ノ學徒モ同ク、愚ヲ甘イ凡ニ培フテ、過量ノ人ナシ。皆是文字ノ解義ナリ。無位^ノ真人是什麼ノ乾屎橛ゾ。同生同年ナルヲ不^レ了、只仏ノ字ニ鼻ヲ築ク。四祖ト牛頭ノ相見ヲ可見。ナニサマ生仏ノ位階、何處ニアリヤ、ト勘破スルヲアタワザル故ナリ。青原ノ所謂、何ソノ所務力階級ニ不^レ落、須是子細。面授ノ篇ノ、唯面与面ノ唯字

モ同。唯ハ獨也ノ訓、唯・獨、各面ノギ、今、經ニ、唯獨自

明了、餘人所不見、唯此一事実、餘二則非真。唯ハ、唯獨自心ノギ、心外ニ法ヲ見ルハ、皆餘外也。假令、法花ノ文ヲ心外ニ見ル、是ヲ餘ノ二、餘ノ人ト云。法花ノ外、餘經、一乘ノ外ノ餘乗ノ法ト云ギニハアラズ。借問ス、心外更有^ヤ餘法^シ麼。

その法、かならず一仏乗にして、唯仏さだめて：——法花轉すべし。聞へた。

其内、唯仏、唯仏ニ究尽せしむ。諸仏七仏おの／＼仏ニ究尽せしめ、尺迦仏に成就せしむるなりトハ、仏ニ同道無他仏、人ニ同仏ニして他仏ナキヲ明スナリ。必シモ仏祖ヲ我ノ外ニ見ルベカラズ。彼ノ法花ノ、我見灯明仏、本光瑞如此ト云モ、人ニ我見、スナワチ日月灯明仏ナリ。你が本然ノ智惠光ノ瑞、如此ナリ、ト知ルベシ。是皆如來真実、知見三界之相、無有生死、若退若出、亦無在世、及滅度者、非實非虛、非如非吳、不如三界、見於三界ノ法花ナリ。法花轉ノ三字、諸仁者見得不及、故ニ不^レ通^ニ古仏宗乘^ニ、一尗ノ轉ノ字ヲ模索して見ヨ。迷ニ轉ズルト、悟ニ轉ズルト、同カ吳カ。法花ヲ轉ズルト云フハ易見、法花ニ轉ゼラル、ト云ハ難見。轉處、實ニ能幽ナルヲ辨得セバ、你ガ日用ノ事也。法花轉の是を、妙法花經ともなづく教卉（菩薩）法^シ。

シタ別冊ニ載ス

これを如是相・如是体等ノ諸法実相と名ケ来ル、故ニ法花ヲ國土として、靈山ノ法花土アリ、虛空ノ法花土アリ、大海・大地等ノ法花土アリ。十方法花ノ仏土中、是即実相ナリ、如是ナリ、法住法位ノ世間相當住なり、一大事因縁モ是ナリ、仏ノ知見ト云モ是ナリ、世間常住如實ナリ、如來深大久遠ノ寿量ト云モ是ナリ。不生不滅法身ノ恵命甚深無量ヘト云ヘバ、マタ別ニ甚深無量ノギヲ尋ヌル。故ニ諸行無常、コレなり、法花三昧、コレナリ、尺迦牟尼仏、コレナリ、轉法花モコレナリ、法花轉モコレナリ。只這是不可別處去、正法眼藏炎（涅槃）妙心モコレナリ、諸仏卉（菩薩）現身度生モコレナリ。此町授記作仏なる保任モアリ、三宝住持モアルナリ。ソレノミナラズ、諸仏說不得、諸祖未了話モ、コ、ニアルヲ。実ニ、參得究尽セヨ。語句ノ塊ヲ、追^フナカレ。

仏為凡夫說テ不為仏說トハ、心仏及衆生、是三無差別、自為是具仏知見ト了ズル底、是仏^シ。不^ニ為^レ彼說^{ニハカ}、生仏吳見スル二乘凡夫ノ、此理ヲ不^レ肯。故ニ、種々ノ說法アルト^シ。法達偈ニ云、曹溪ノ一句亡、トアルヲ、一物相似ノ師學、那一句、ナド、名ケテ、別ニ妙句ナルモノアリト謂^ヘリ、悲カナ。那一句トハ、那ノ一句ゾト云心^シ。必ズ言句ノ短キヲ云ニモアラズ。那尗カ一句ナル、那尗カ一句ナラザル。法花六万餘言尽ク是一句、一大藏經モ只是一句、那ノ一句ノゾ。

汝自心ノ一句ゾト云ヘバ、マタ鬼窟ニ投入ス。彼ノ永嘉ノ、

粉骨碎身不足酬、一句了然超百億モ此一句ノ_一。然ル此両

句、古来ヨリ謬解ゾ云、一句了然トメ百億ヲ超ル。此一句ノ

恩ハ、粉骨碎身シテモ酬ガタシト云サデハナシ。タトヒ無量

劫中、粉骨シ碎身スル難行苦行ヲ以テス比、生死ノ業三酬ヒ

償ニ不足。百億生死ノ業報ヲ超ル_一ハ、只此ノ了然タル、

汝ガ自心ノ一句ナルベシ。身形ノ苦行ヲ、仏修行ト云ベカラ

ズ。此町三賢十聖ノ見解ヲ以テ、知ルニアラズ。ナニヲカ一

句了然ト云ヤ。目ニ見テ了然、耳ニ聞ク了然、着衣喫飯、只

這一句、全無両句、故云、唯此一事、寔餘二則非真、唯有一

乘法、無二亦無三ト、尽界尽地、千々万々、何ノ吳句カ之有

ル。然モ不可昆命呑棗。

今、法花轉ノ実相、實性、實体、實力、實因、實果の如是な

るハ、祖師より以前、いまだあらざるところ、いわゆる法花

轉といふハ、心迷也。心迷、スナワチ法花轉なり。しかあれ

ばすなわち、心迷ハ法花ニ轉ゼラル、なり。その宗趣ハ、心

迷、たとひ万像なりとも、如是轉ハ法花ニ轉ゼラル、なり。

是、永平古仏ノ、古今未聞難有ノ法言也。天台智者三大

口（部）三十如是ヲ尺（糺）スル。義解ニして直指ノ法にア

ラズ、只理性ヲサシテ云ノミ。今マ古仏、ノ玉フ、心迷タト

ヒ万像ナリビトハ、八万四千ノ冤（煩惱）ナル形像、ソノ形

像ノ如是相、如是性、体、力、因、縁、果、報等、スペテ法

花ニ轉ゼラル、是、諸法實相ナリ。

然ルニ、今ノ師学比ニ實人ナシ。老僧、日用隨徒ノ者ノ行住

坐臥ヲ呵責ス。然レバ、鈍渋ハ、無用ノ世話ヲ焼クト云、可

哀。ナニカ是世話、何ニカ是仏法。世間ニ實ナキ者、終ニ仏

者アラズ。實ト云ハナンゾ。自心ノ實く。然則世間ノ心ト仏

法心ト、自心、アニニツアランヤ。学者、子細ニ辨肯セヨ。

法花ノ諸法實相ト云モ、何ゾヤ。汝ガ今日ノ如是相、如是

性、如是作、如是力、因、縁、果、報、本末、無_ニ他事。只

此実ノ一字、世・出世不二、一以貫_レ之、是謂_ニ唯一仏乘

トノミ。

今世一統ニ、仏法ヲ、瓜_リ、茄子ヲ作ルゴトク、念比ニ分別ノ糞_{コヤシ}ヲ以テ作り立ル彫偽ノ人師、如麻如粟、吁不知耻者何也。

什麼処カ那_ニ一句ヲ了ゼンヤ。今ノ法ト云ハ、或ハ寺ヲ建テ、

僧ヲ聚メ、飲食ノ供養ヲ厚クシ、施主家、四事供養、閑熟ナ

ルヲ法ノ繁昌ト云フ。或ハ、法ノ為メナル故ニ、如是シ如是

ナス。鐘鼓ノナラシ羊、起振舞、施主ノ殊勝ナリト思フ様ニ

ト、是ヲ法ノ為メト云。ア、片腹痛カナ。可知、法ハ、細

工スル者ニハアラズ。故花_ム・法花ニ、仏ノ言フ法如_{シテ}是、

此仏言、開_テ眼照看セヨ。法ハ、在_レ仏不増、在衆生不減、天

上天下、唯心獨尊、無二之法、只如是也。不可由他求、汝日

用、心外無_ニ別法必也。今世ノ人師ノ所_レ言法者、非法ナル

ヲ点検セヨ。法スラ可捨、況ヤ今時妄識ノ作為スル非法ノ
仏法ヲヤ。乞、懸哉。^{ツツシメヤ}

此轉ぜらるゝ、よろこぶべきにあらず、うるにあらず、きた
るにあらず、しかあれども法花轉ハすなわち無二亦無三なり
ト。是則法花ニ轉ぜらるゝ宗趣也。故云、唯有一仏乘、如
是相の法花にてあれば、轉法花ノ能轉、法花轉ノ所轉、能
轉・所轉をいふといへども、一仏乘ニソ無二亦無三、一大事
なり。如^レ是、皆是唯心、赤心片々なるのみなり。豈教者誦
文法師類、此宗趣ヲ知ンヤ。如是了則ハ、心迷を恨ムル^ヲナ
カレ。汝等日用ノ所行、是卉ノ道ナリ。世尊久遠ノ本行ノ卉
道、奉勤於諸仏、開示悟入モ、各々ノ法花轉ヘト。花^(マ)弘ノ
靜、大悟却迷モ、此ノ心也。審細ニ工夫スベシ。故ニ、火宅
ニ心迷アリ、當門門外・門内ニモ心迷アリ、門前ニ心迷ア
リ、ノ文ハ、衍ナリ。門外ハ、即門前ノギ也。然則、心迷ニ
門内・門外、乃至當門火宅等を現成ス。是以、白牛車ノ上ニ
モ開示悟入アルベシトハ、白牛車ハ轉法花ノ能轉ナリ。心
迷ノ所轉即能轉ノ法花ナレバ、能モ所モ無二亦無三、一仏乘
ニシテ、心迷ノ時ノ開示モ悟入モ、比ニ白牛車上ノ法花轉ナ
リ。

知ルベシ、白牛車中ニ火宅を開示悟入セシム法花轉モアリ、
露地ニ火宅を開示悟入セシムル法花轉モアリ、當門ノ全門
ニ、開示悟入ヲ轉ズルアリ。心迷・心悟、能轉・所轉、同一
普門ノ實相、一乘ノ門ニ開示悟入ノ四仏知見ヲ轉ズルアリ、
開示悟入、四仏知見ノ各々に同一普門を開示悟入スル轉ア
リ。三界火宅ノ門内、界外寂滅ノ門外、共ニ開示悟入スル轉
アリ、火宅ノ中ニ直ニ性空無依ノ露地ヲ開示悟入スルアリ。
是以、心迷・心悟、能轉・所轉、轉開・轉示、轉悟・轉入、
轉^ヘ不二、間不容髮、轉処能実ニ幽ナル^ヲ見破スベシ。露
地ニ火宅ヲ開示悟入セシメ、火宅ニ露地ヲ開示悟入セシム。
是、大悟・却迷ナル^ヲ究尽スベシ。如是ナル故ニ、火宅モ
不會、露地モ不識、惣而、永平古仏ノ不會ナリ、不識ナリト
所々ニアルハ、解會・ト度ノ識情ニ落チヌ^ヲノ玉フト云ヘ
バ、マタ、一物仏法ノ知見解會ニ落ヌ處、證^シノ知ル処ナド云
ノギニハアラズ。老胡ノ知ヲ許^シノ老胡ノ會ヲ許ヌノ心也。如
是ノ言句ヲ、古來ヨリ錯リ解スルハ、一句了然タル^ヲ弁得
セザル故也。會トハ、ナンノ會也。知トハ、ナンノ知也。一
物仏法ノ人師^ビハ云、只知ルバカリヲユルシテ、解會ニ落ル
ヲ不^レ許云。是ヲ作り、仏法ト云ナリ。彼ノ聞カント思ハ
ズ、見ント思ハズシテ聞キ、見ル。是、不生ニシテ見、不生
ニシテ聞ク。ソレヲ、アトヨリ、今ノハ大鼓ノ声、今マノハ
鳥ス、雀メナリト思ヘバ、不生が損スルト云ノ類也。思ズ聞

クト、思テ聞クト、汝ガ自心、二ツアリヤ。第二念ニ流注スルト云モ、是ナリ。念、アニ一二アランヤ。イマダ了然タル一句ヲ、曉セザル故ナリ。如來ノ如實知見、三界之相、ト云位モ、此コノツヘ。故ニ、

輪轉三界ヲ、誰カ白牛車ト一乗セン。開示悟入を、誰カ實相一乗ノ法門ナリト、出入セン。火宅ヨリ車ヲ求ムレバ、幾許バクノ三界ノ輪轉ゾヤ。無依性空ノ露地ヨリ生死ノ火宅をノゾメバ、ソクバクノ深遠なるのみ。此町ヲ、無依性空ノ露地ニ、靈山ヲ安穩セリトヤ究尽シ参究セン。マタ靈山ニ、無依ノ露地ハ平坦ナリトヤ修行セン。壽量品ノ、衆生所遊樂ヲ我

淨土不毀ト常在不滅せる人々、我ナルヲ審細ニ本修すべき人。イ本ニハ、本行すべきなり、トアリ理ニヲイテ同一。

本ノ字、本行卉道ノ本字、你ガ本然本具ノ本ナリ。然モ本末究竟等。寿量ノ偈文ノ、一心欲見仏ハ、人ニ自ラナリトヤ参究す、他なりトヤ参究す。実ニ参究得セバ、アニ自他ヲ云ンヤ。此、一心欲見仏、不自惜身命ノ文ヲ、玉葉ニ、假染ノ此世バカリノ戀ニダニ、逢ニ命ヲ、惜ムベキカワ、トアリ。

分身ト成道せし時アリ、全身ト成道せし時アリ。見宝塔品ヲ可見。

常住此説法なる開示悟入あり、方便現炎（涅槃）なる開示悟入あり、雖近而不見なる開示悟入あり、トあつて好シ。七字、脱スルナラン。たれか一心ノ會・不會を信ぜざらん。

皆、自己一心上ニ在テ、唯我知是相、十方仏亦然ナリ、如是大果報、種々性相ノ義、我及十方仏、乃能知是事、是法不可示、言詞相寂滅、諸餘ノ衆生類、無有能得解。誰カ一心ノ會・不會を信ぜざらん。方便品ヲ熟覽セヨ。如是大果報ノ大ノ字、實相ヲ明ス。種々性相義ノ種々ハ、權法ヲ明ス。是諸法實相、如是相・如是性・体・力・作・因・縁等、一寔不二、我ト仏ト同一自心。此処不可示、言詞寂滅。唯仏与仏、乃能究尽モ亦尓。生仏吳見ノ文字、算沙ノ学者ノ非所知。是則、永平古仏宗乘ノ眼目、法花轉々法花ノ妙談ナリ。殷勤ニ参究セヨ。

天人充满ノ町ハ、即尺迦牟尼仏・毘盧舍那ノ国土、常寂光土なり。おのづから四土ニ具スル。我等即如一ノ仏土ニ居スル人。義理、分明。四土ハ、同居・有餘・果報・常寂ノ四土ニ具有セラル、我等、即如一不二ノ仏土ニ居メ、全無他土。如是ニ到ル時、微塵ヲ見ル、法界ヲ見ル。法界ヲ證スル則微塵ヲ證スル。是以、諸仏ノ、法界体性ヲ證スル、我等を證スルニあらざらしむるなし。その初中後^ヨニ善く。

然アレバ、今モ你が證ノ如是相なり。五千退席等、舍利弗等ノ驚疑・怖畏、魔作仏ノ思モ、如是實相ニアラザルナシ。只是、仏ノ知見ヲ以テ空ク凡見トナシテ、微塵ゴトキノ小知見ニシテ、微塵ゴトキノ小窠窟ニ坐在スルノ異ナルノミ。然モ、仏知見ノ法界ニ坐スルモ、廣キアラズ、凡見ノ微塵裡ニ

坐スモ、セマキニアラズ。ソノ故ハ、如是ノ保任安心ニアラザレバ、坐スベカラズ。保任アルキハ、微塵裡、法界海ノ廣狭ニ驚疑ナキナリ。是、法花轉ノ体力ヲ究尽セルニヨリテヘ。

しかあれば、我等が今之相性、是仏法界ニ本行すとやせん、微塵裡ニ本行すとやせん、可知、微塵裡ニモ、仏法界ニモアレ、驚疑スベキナシ、怖畏スベキナシ。都テ法花轉ノ本行ノ、深遠長遠なるのみ。汝等諸行是卉道、常在於其中經行若坐臥、更ニ別処ニ行カヌ本行ナリ。

この微塵ヲ見ルと、法界を見ルト、有作有量ノ計校ニハアラズ。然モ有作有量モマタ法花轉ノ大量とならひ、法花轉ノ大作とならふべし。是モ、法花量を、法花作を、とある、をノ字ハ、との字ニしてよし。

開示悟入をきかんにハ、欲令衆生、開仏知見ときくべし。仏知見者、知即仏心、見即仏眼、又仏知見者、一仏乘平等ノ大惠、別而言之、在心曰知、在眼曰見。

いはゆる開仏知見の法花轉なる示仏知見にならふべしと。

是も示仏知見とならふべし、と、にノ字を、との字ニしてよし。下も、これにならふべし。心ハ、衆生妄惑無明ノ封部ヲ開ク、直ニ仏知見ノ真體ヲ示スナレバ、開仏知見ノ法花轉なるを、直ニ示仏知見とならふべし。

夫ノ示仏知見ノ法花轉なるを、悟仏知見とならふべし。悟仏

知見ハ、豁然洞視自性本然ヲ云。サテ、コノ悟仏知見の法花轉なるを、你造自得ノ入仏知見とらなふべし。此町文、前後スルゾ、如是ニ見テ好シ。

かくのごとくの開示悟入の法花轉ニ、各々究尽ノ道あるべし、とハ、円理ヲ明シ玉フ心。開ニ示悟入アリ、示ニ開悟入アリ、悟ニ開示入アリ、入ニ開示悟アリ。如是、四仏知見各々ニ究尽ノ道アツテ、四知即一、一知即四、凡コノ諸仏如來ノ知見波羅蜜ハ、廣大深遠なる自心上ノ法花轉也。授記ハ即自己ノ開仏知見、他ノ仏ノ授ルニあらざる自心ノ法花轉ナリ。これを、心迷法花轉トイふなり。

心悟轉法花：——いはゆる法花の、われらをする法花轉のちからを究尽する時、却而自ラを轉ずる如是力を現成スルトハ、上ニイハユル、法花轉ノ力用ヲ、上ノゴトク究尽スレバ、其時に、自ラ轉ズル如是力を現成ス。みづからをとある、をノ字、衍ナラン。みづから轉ずる如是力「トハ」、自心轉ノ轉法花ノ如是力ナリ。故ニ下ニ、この現成、轉法花なりといふ。從来ノ轉ト云ハ、昔シノ心迷法花轉ノ時をいふ。しかれば、昔ノ心迷轉、さらにやむるにあらずといへども、おのづから法花を轉ズル。是を、駒事おわらざるに、馬事出来すべし、といふ。即出現於此、唯心一大事因縁あり、地涌千界ノ衆ハ、ひさしき法花の大聖尊なりといへども、自ラに轉ゼラレテ地涌シ、他ノ法花ニ轉ゼラレテ地涌す。地涌の

ミにあらず、虚空涌にも轉法花すべし。地空のミにあらず、法花涌トモ、仏知すべし。法花涌出會ノ時ハ、父少子老人。しかれば、子ノ子ニあらざるにあらず、父ノ父にあらざるにハあらず。父少子老と見ルハ、法花會衆ノ見、いまだ久遠実成ノ父ヲ見ず、子ヲ知ム。然モ世ノ不信にならふて、おどろくことなけれ。世ノ不信ハ、法花會ノ時なり。是以、一時仏住ノ有時ノ轉法花すべし。此已下ノ文、処トシテ轉法花ならざるなき事を明シ玉フ。仏壽モ轉法花也。法花ト法界と、一心とも、下とも、空とも、猫とも、単疋現成シ、轉法花すべし。有覺ノ悟を待べきあらず、無覺ノ迷をあやしむべきニアらず、みづから轉ジテ發井心する時、即龍女南方ノ成道なり。この成道、元より南方に集會スル靈山なり。靈山、かならず轉法花なり。虛空に集會する十方仏土なり、是皆轉法花ノ分身なり。すでに十方仏土と轉法花する時ハ、間に髮を不_セ容、故一微塵ノ可_レ容他土、ところナシ。然疋、十方仏土ノ色即是空ノ轉法花アリ。實土ノ可_ニ依住_{ナシ}。若退若出ニあらずトハ、壽量ノ文、集兜、集ヲ起スヲ退ト云、五陰無常ノ果現ヲ出ト云。然バ轉法花ハ、如實知見、三界之相ノ仏知見ヲ以テ見ル故ニ、若退若出あらず。一切處、常恒清涼不變ノ寂光土、空即是色ノ轉法花也。是を壽量ニ、如實知見、三界之相、無有生死、若退若出、亦無在及滅者、非實非虛、非如意_ハ、非_ニ、畧文ニハアラズ。知見不明輩ハ、簡畧ニシテ見ニクシ。心ハ、多宝久滅度、仏ノ涌出ハ、今尺迦_ト上ノ證法花ノ非_ニ、不如三界、見於三界トイふ。

われに親友なるハ、われとかれに親友なり、親友の禮、勤わするべからずトハ、五百弟子品ノ文、仏衆生其性不二、吳類ニアラザル故ニ親友ト云。仏、われニ親友なれば、われも又_ニ仏ニ親友なり。同志相交ヲ曰_レ友。

「仏前宝塔ある」——由旬ナリ、イヅレカ轉法花ノ事ならざらん。

従地涌出住在空中ノ轉法花あり、心も（碍）礙なし、色も罣碍なし。罣ノ字、写誤ル、直スベシ（注、本文「碍礙」トスルヲ指ス）。地・空ノニツヲ、色・心ノニツニアテ玉フノミ。次ノ下方ノ、空ヨリ涌出ソ此土ノ地中ニ住在ある轉法花ハ、眼も身も罣碍セラル、且、前ニも云トヨリ、水中ノ月ノゴトシ。

塔中ニ靈山アリ、靈山ニ宝塔アリ……證ス。キコヘタ、靈山ノ仏ケ、塔中ヘ證入するにハ、即靈山ノ依正ヲ不移轉_セ、轉法花證入なり。塔中ノ佛、靈山ニ涌出するに、古仏土ながら、久滅度ながら、一步ヲ不_レ移、一時ヲカヘズ、涌出スルナリ。

多宝ノ涌出も、尺迦ノ轉入も、凡夫・二乘ノ見ニならわざれ。轉法花ノ仏知見ヲ学すべし、久滅度ハ、仏上ニソナハレル證莊嚴ナリ、ト。此文、簡孤ニシテ見ガタシ。永平古仏ノ意ニハ、畧文ニハアラズ。知見不明輩ハ、簡畧ニシテ見ニクシ。心ハ、多宝久滅度、仏ノ涌出ハ、今尺迦_ト上ノ證法花ノ非_ニ、不如三界、見於三界トイふ。

莊嚴ナリ、といふ心。仏上ノ、上字ハ、土字ナランカ、疑シ。

塔中と仏前と、宝塔と虚空ト、灵山ニあらず、法界ニアラズ、半段ニアラズ、全世界ニアラズ、是法住法位のミニかゝわれず。作應生是ナラン。方便品所謂、是法非思量分別之所能解、唯有諸仏乃能知之ノ処ナリ。如是云バ、言語道断、心行所滅、言句上ニアラヌト云テ、窟宅スル一物仏法、甚多シ。

ナニヲカ非思量ト云ヤ。魂不散ノ死人ノゴトキヲ云ニハアラヌ思量・非思量ナリ。思量箇^ヲ非思量ト^ヲ薬山ノ云ハレシヲ以テ、非思量ノ処、別ニアリ、トヲモヘリ、可笑。非思量ヲ思

量スレバ、思量箇スナワチ非思量、非思量ノ思量ナルヲ可知。前ノ、心迷法花轉、心悟轉法花モ、余ナリ。

或現：——妙音品ノ文。或現提婆達多ノ轉法花あり。方便品ノ或退亦佳矣ノ轉法花アリ。同ク、合掌瞻仰待。必是ヲ、序品ノ、六十小劫と計ル（こ）とナカレ。ソノ一心待ノ心量ヲツヅメ収メ把定メ、且ク幾無量劫といふとも、猶是不能測仏智ナリ。待ナル一心、兎仏智ノ量とかせん。この轉法花ハ、本行卉道のミと認ズルヲナカレ。法花一座ノ処口、序品云フ、今日如來說大乘と轉法花ナル功德ナリ。法花ノ、いまし法花なるハ、你ガ昔シノ不覺不知なれども、今ノ不識不會へ。しかあれバ、深大久遠五百塵点ハ、且ツ今ノ一毛許^{バカリ}ノ轉法花ナリ。只是、赤心片々、仏壽ノ開演せらるゝ処ナリ。次

下、聞ヘタ。

轉法花の宗旨つがふあらずトハ、會ノ字ヲ、ツガフ、トヨマセタレバ、會スルモノナキノ心。又イ本ニハ、つたふ、とアレバ、傳ノ字ヘ。心ハ、同じ1人。今はをきゝ、いまこれニ逢ハ、尺迦古仏ノ多寶古仏ニあふにあへる。併ラ皆本事古仏士ニあらざらんや、たとひ自身心を強弱すともトハ、自ラノ身心堅強ニもあれ、墮弱^{ママ}ニもせよ、更ニ是法花ナリ。故ニ、あらゆる如是ノ諸法ハ、珍宝^{ムカシ}ハ、光明ナリ等、スベテキコヘタ。次下ニ、別段ニ書ケルハ、アシ、前ヘニツダケテ可書^ム。文義ハ明カナリ。

今日ノ出家ハ、從來ノ轉法花ノ如是力ノ如是果報なり。轉法花ノ轉ノ字、衍カ。下ノ文ニテ見ヨ。今ノ法花、かならず法花ノ法花果あらんと、轉ノ字無クして聞ユルゾ。

ひごろの轉法花ハ、如是相も不覺不知にかゝれりしかども、今ノ法花、さらに不識不會ニあらわるト。是も、上ノ轉法花ハ、法花轉ニしてよし。今ノ法花ト云、上ニ轉ノ字アリテヨシ、可考。昔時も出息入息、今時も出息入息あり。これ妙難思ノ法花ト保任スベシ。此語、教者等ノ開口不得ノ処へ。

此法花轉々法花ノ句、一尙ノ轉字、上下於法花^ニ、往來於迷悟、其玄旨趣、不可以言宣。依摩擎羅尊者偈親可參尽之。

心不可得 第十三

如_レ此也、此義尤好

仏言、三世不可得是仏祖ノ參究なり、不可得裡ニ三世ノ窟籠ヲ剜來セリトハ、窟籠ノ字ハ、代醉ノ十二卷二十_二反切ノ字ヲ

出ス内ニ、窟籠_{クソロウ}ノ反、孔ノ字也。他心通ノ六業ニ此字ヲ用ル

心ハ、鼻孔ノ口ニ聞ユル。此ニ云處モ、心不可得裡ニ三世ノ鼻孔ヲ剜削シ来ル。シカアレドモ、皆自家ノ鼻孔を用ひ来るナリ。全ク不可_レ依_レ他_ニ。又、窟宅樊籠ノギニモ見ヨ。

道理無_レ害。自家ト云ハ、今現前ノ思量分別ノ心不可得ナリ。使得十二時ノ渾体、是心不可得ナリ。

然_ニ、徒ニ云フベキニハアラズ。仏祖ノ室ニ入ズンバアルベカラザルノ問取・道着なり。只自己心不可得ノ鼻孔ヲ点検シ来テ看ヨ。次下ハ、不_レ及_レ弁_ニ。

雲居山弘覺禪師ハ洞山ノ嫡嗣なり。釈迦牟尼仏第三十九世ノ法孫なり。

一日示衆曰、欲得恁麼事、須是恁麼人、既是恁麼人、何愁恁麼事。

いわゆるハ、恁麼事を得ントおもふハ、須恁麼人、既是恁麼人なり。何ゾ恁麼ノ事を愁ン。此宗旨ハ、直須無上井_ヘ、且ク是を恁麼トイふ。此無上井ノ為_{テイタラク}「体」ハ、即チ尽十方界も無上井ノ少許_ヘ。井ノ量ハ、尽界ニもあるべし、我身も尽界中ノ調度。一物のみ我なる私シ物なし。身、すでに如是なれば、命ハ光陰ニ移され、且クもと_レめがたし。紅顔、いづくにかさりにし、たづねん跡とて_(墨損)（む）なし。つら_ク観するに、往事ふたゝびあふべからざることおゝし。赤心もとゞまらず、片々として往来す。たとい實にありといふとも、吾我のほとりにとゞこほる物にハあらず。恁麼なるによりて、無端_{ハシケ}發心する者あり。此心、發るよりハ、向來、もてあそぶ町をなげすて_ハ、町未_レ聞をきかんと願ひ、町未_レ證を證せんともとむる、ひとへに私_{ワタ}しの町為にあらずト知テ、偏ニ頭然ヲ救ふがごとくする時ハ、可知、恁麼の人なるゆへに余アリ。すでに恁麼人の面目あれば、恁麼ノ事をうれふべからず。愁も恁麼ノ事なるが故、愁にハあらざるなり。又、恁麼、不恁麼_ハ奪也、俱不可也、恁字梅膺祚音訛、女禁切、音質、

恁麼篇 第十九

*題目ノ前ニ次下ノメモヲ記ス

「恁麼 事苑ニハ、——ハ審詳也、玄監_{ママ}図、恁麼縦也、

事ノ恁麼現成することあるにも、おどろくべからず。たと
い、おどろきあやしまるゝ程に恁麼事現成ありとも、さらに
これ恁麼なり。おどろくべからずといふ恁麼あるなり。是、
只仏量にて量すべからず、心量にて量すべからず、法界量に
て量すべからず、尽界量にて量すべからず、一切の所量にあ
らざ。たゞまさに既に恁麼人、何愁恁麼事なるべし。是故
ニ、声色の恁麼なるハ、恁麼なるべし。恁麼ノ下ニ、なるノ
二字、有テヨシ。下も、例ソ見ヨ。身心の恁麼人ナルハ恁
麼なるべし。諸仏の恁麼なるハ、恁麼なるべし。たとへてい
はゞ、因レ地倒ル者ノ時を恁麼なりと恁麼ニ會するに、必因
地起の恁麼の時、因レ地倒、・――をあやしまざるがごと
し。地ニ依テ行クべき物ノ、地に依テ倒れしを、倒るまじき
にたをれたりと、誰もあやしまざるがごとし。一切処・一切
事恁麼なるニ、知らず迷へるを、誰も迷まじきに迷へりとあ
やします。其故ハ、迷と悟と別なしと思ふによりてなり。一
切法の無ニをしらず、善ト惡ト、正ト邪、偏ト圓ト、是ト非
ト、自ト他ト、生ト仏ト、此類、兎・井、智・愚等、一々
枚挙するに及ず。是以恁麼なる事を恁麼なるべきと知れ。此
古仏ノ示教、輕々ニキクべからず。只此一言、一切処ニ通達
する活路なるぞ。因地倒因地起ノ語ハ、古昔よりいひ來り、
西天ヨリ道來、天上ヨリ道來る道あり。いわゆる、若因地
倒、還因地起、離地求起、終無其理。いわゆるの詞バハ、地

ニよりてたをるゝ物ハ、かならず地によりて起、地によらず
しておきんことをもとむるハ、さらにうべからず、となり。
是を挙拈して、大悟をうる端トシ、身心を、もぬくる道とセ
リ。

迷も心く、悟も心く。心ニよりて心に迷ふハ、地ニよりて倒
て地に因て起るがごとし。迷ズンば、悟ベからず、倒れずん
バ起くべからず。迷ト悟ハ、一地上ノ起・倒ノごとし。本ト
迷ざることハ、元ト倒れざるがごとし。老僧常云、無レ可レ迷
而迷可レ迷之法^ニ、無レ可レ悟而悟^ニ可レ悟之法^ヲ、為什麼^{テカト}迷^ニ、
為什麼^{テカト}悟^ニ。然を、今ノ人ハ、生々世々、始メヨリ、迷^ニ
ナリと思ふ。故ニ、只起悟的做工夫ノミ。雖歷永劫豈^{アニヤ}可レ悟
哉。只迷わぬ恁麼ノ事をしれ。恁麼ノ迷を、何ゾ愁ン。倒れ
ぬ事を知らば、起不得ノ愁ハ有ベからず。然ビ、生々世々迷
ひ来たりと云テ、二乘窮兒乞食ノ念、休(ミ)ガタシ。生々
世々ト今日ト、是什麼ノ時節ゾ。觀彼久遠猶如今日、自己ニ
返照ソ看ヨ。一念普現無量劫、無去無來亦無住、如是了^{スレハ}
三世事^ヲ、超諸方便^ヲ成三十方^ヲ、是教迹中相談。况吾祖門下參
禪衲僧、豈不了這般事哉。

身心を、もぬくるといふも亦尠なり、繫縛せズンば、解脱す
べからず。是故ニ、もしいかなるか諸仏成道ノ道理なると、
問着セバ、地に倒るゝものゝ、地ニよりておくるがごとし、
といふべし。是を参究して、向來も末上も、透脱すべし。正

當恁麼の時をも、透脱すべし。正當恁麼の時を透脱することなくバ、毒海ニ墮するなり。

大悟却迷、不悟不迷、被悟碍^一、被迷碍^一。ともにこれ地にたおるゝものゝ、地によりておくる道理なり。被悟碍・被迷碍ノ罣碍ハ、水月ノ罣碍^一。前ニ如辨。起ツ、倒レツ、什麼物恁麼シ来ヤ、把收ソ看。是、天上天下の道得^一、西天東地の道得^一、古往今來の道得なり、古仏新仏の道得なり。此道得、さらに道未尽あらず、道虧闕あらざるなり。然モ、恁麼會のミにして、さらに不恁麼會なきハ、この恁麼事のことばを、参究せざるがごとし。たとい古仏の道得ハ、恁麼つたはれりといふとも、さらに、我今古仏として古仏ノ道を問着せん時、向上の問着あるべし。此ノ二ツノ問着ノ字ハ、道着ノ字ナラン。道着ニシテ見ヨ。

いまだ西天ニ道取セズ、天上ニ道取セズといへども、さらに道着の道理あるなり。いわゆる、地ニよりてたをるゝもの、もし地によりておきむ事をもとむるにハ、無量劫をふるとも、さらに起クべからず、まさに一つノ活路より起くることをうるなり。いはゆる、地によりてたをるゝものハ、必空ニよりて起キ、空ニよりてたをるゝものハ、必地ニよりておくなり。もし恁麼あらざらんハ、つるニ起ることあるべからず。諸仏諸祖、皆如是ありしなり。もし人ありて恁麼問ン、空ト地ト相去一いくそばくぞ。恁麼問着せんに、彼に向テ恁

麼いふべし、空ト地ト相去一十万八千里なり。若因^一地倒^一必因^一空起、離^一空求^一起終無其理。もしいまだ如是道取セざらんハ、仏道の地・空の量、いまだしらざるなり、いまだ見ざるなり。諸仁者いへ、なにを力空トイひ、なにを力地トイふ。審細に工夫参究すべし。

第十七代の祖、僧伽難提尊者、因ニ伽耶舍多、是法嗣なり。或時、殿ニかけける鈴鐸ノ、風ニ吹レテ鳴を聞^キて、伽耶舍多に問、風吹とヤせん、鈴鳴とやせん。伽耶舍多まふさく、風の鳴にあらず、鈴の鳴にあらず、我心の鳴なり。僧伽難提尊者はく、心ハ復誰^{ナニ}ぞや。伽耶舍多まふさく、俱寂靜なるがゆへに。僧伽難提尊者はく、善哉^モ、我道を繼ぐ者、子にあらざるよりハ誰^ゾ。終ニ正法眼藏を傳付す。是ハ、風の鳴にあらざるところに、我心鳴を学す。鈴の鳴にあらざる時、我心鳴を学す。我心鳴ハ、たとい恁麼なるといへども、俱寂靜なり。西天より東地につたはれ、古代より今日にいたるまで、此因縁を学道の標準とせるに、あやまるたぐひ多し。

いわゆる、伽耶舍多の道取する、風の鳴にあらず、鈴の鳴にあらず、心の鳴なりといふハ、能聞の恁麼時の正當に念起あり。此念起を、心といふ。此の心念、もしなくバ、いかでか鳴響を縁ぜん。此念によりて聞を成するが故ニ、此念を、聞の根本といひぬべきなれば、心の鳴といふなり、と道取する

ハ、是邪解なり。正師ノ力を得ざるをもて、かくのごとし。

譬バ、依主隣近の教人の釈のごとし。如是なるハ、仏道の玄学にあらず。

しかあるを、仏道の嫡嗣に学し来るにハ、無上井正法眼藏、是を寂靜といひ、無為といひ、三昧といひ、陀羅尼といふ。道理ハ、一法わづかに寂靜なれば、万法ともに寂靜なり。風吹寂靜なれば、鈴鳴寂靜なり。是故ニ、俱ニ寂靜といふなり。心鳴ハ風鳴にあらず、心鳴ハ鈴鳴にあらず、心鳴ハ心鳴にあらず、と道取するなり。然バ、鳴物ハ是什麼ゾ恁麼シ来ルヤ。親切ノ恁麼なるを究辨せんよりハ、さらにたゞいふべし、風鳴なり、鈴なるなり、吹鳴なり、鳴々なりともいふべし。益、究辨せんよりハ、とある詞バ、安スカナラズ。按ズルニ、一法寂靜なるに通すれば、萬法寂靜なり。故ニ、風

吹寂靜なり、鈴鳴寂靜なり。故ニ、一切俱ニ寂靜トイふなり。是以、心鳴ハ風鳴にあらず、心鳴ハ鈴鳴にあらず、心鳴も亦心鳴にあらず、と道取するなり。然バ、ナニカ是鳴物と、親切に恁麼なるを究辨せしより、さらにたゞいふべし、とありて好シ。風鳴なり、鈴鳴なり、マタ吹鳴なり、ト云吹ノ字ニしてハ穩ならず。心鳴なり、鳴ル鳴ルなりといふべし、とあつて好シ。前ノ文ト見合セヨ。益シ、語ニ迷わずとも、意ニ通ぜよ。下ノ、何愁恁麼事なるによりて、恁麼なるなり。此ノ二句も

不_レ易_レ見。

心ハ、今コ、ニ云処ハ、前ニ、恁麼會のミにして不恁麼會なきハ、此言葉を参究せざるがごとし。たとい古仏ノ道得ハ恁麼ニ傳はれ、此外、西天にも道取せず、天上ニも道取せずとも、さらに向上的道着あるべし、とありし心なり。雲居ノ、恁麼ノ人何愁恁麼事、と云レタゴとくの故ニ、恁麼あるにハあらず。何_{アツカラ}関恁麼事なるによりて恁麼なるなり。向上ノ道着なり。何愁、何_{アツカラ}関ノ四字ノ轉却ヲ、辨肯セヨ。此鳴ト云字、參學ノ眼目也。

第三十三祖大鑑禪師、廣利法性寺ニして、二僧の對論するに、仁者心動、ト云ル、を聞_キて、二僧すミヤかに信受す。此二僧ハ、西天より來れりけるなりと、な_マに處西來意あるなり。

さて、六祖ノ道着ハ、風も幡も動も、俱ニ心にてあるを道取するなり。今マ六祖ノ道をきくといへども、六祖の道をしらず、いはんや六祖の道得を道取することを得ンヤ。為甚麼恁麼道。いはゆる仁者心動の道をきくて、便チ仁者心動といはんとしてハ、仁者心動と道取するハ、只其ノ語句をのミをとりて、六祖を見ず、しらず、六祖の法孫にハあらざるなり。六祖の児孫とし、六祖の道を道取し、六祖の身体髮膚を得て道取するにハ、恁麼いふべし、いわゆる仁者心動ハさもあらばあれ、さらに仁者動といふべし、ト。古仏、依_カ什麼・心ノ

字を抜キ玉フヤ。眼を着ヨ。

又曰、為甚麼恁麼道。いはゆる動者動なるが故ニ、仁者仁なるによりてなり。於茲も亦、心ノ字なし、いかんとか思ふ。已是恁麼人なる故ニ、恁麼道なり。恁麼ノ人ハ、きゝ得て点頭すべし。

六祖のむかしハ、新州の樵夫なり。山をもきはめ、水をもきわむ。たとい青松の下に功夫して根源を截断せりとも、なにしてか明窓ノ内ニ從容して照心の古教ありとしらん。澡雪、たれにかならふ。 澡雪ノ字ハ、莊子ノ知北遊篇ニ出。澡雪、洗滌也。

市ニありて経をきく。是自ラ待し処ニあらず、他のすゝむるにあらず。いとけなくして父を喪し、長じて母をやしなふ。不知、此衣ニかゝれりける一顆明珠の、乾坤を照破することを。忽ニ發明せしより、老母をすてゝ知識をたづぬ。人のまられる儀なり。恩愛の、たれかかるからん、法をおもくして恩をからくするによりて、棄恩せしなり。是則有智若聞、則能信解の道理なり。いわゆる、智ハ人に学せず、みづからおこすにあらず。智、よく智につたわれ、智則智をたづぬるなり。五百ノ蝙蝠ハ、智、おのづから身をつくる。さらに身なし、心なし。一千ノ遊魚ハ、智、したしく身にてある。故ニ縁にあらず、因にあらずといへども、聞法すれば則能信解するなり。此聞法信解ノ智、外ヨリ来るニあらず、外ヨリ我心

内ニ入るニあらず。たとへバ、東君の、春にあふがごとし。此智ハ、有念にあらず、無念にあらず、有心ニあらず、無心にあらず、いはんや、大小乗にかゝはらんや。迷悟の論ならんや。今いふところハ、仏法ハ、いかにあることゝも不知、さきより聞取するにあらざれば、しとふにあらず、ねがふにあらざれども、聞法するに、恩をかるくし、身をわする、ハ、有智の身心、すでに自己、わたくしにあらざるがゆへに、しかあらしむるなり。是を、則能信解といふ。不知、いくめぐりの生死にか、此智をもちながら、いたづらなる塵労ニめぐる。なをし石の、玉をつゝめるが、玉も、石につゝまれりともしらず、石も、玉をつゝめりともしらざるがごとし。人、是をしる、人是を採。是則玉の、期せざる処、石の、またざる処、石の、知見によらず、玉の、思量にあらざるなり。すなはち、人と智と不_レ相知ども、道必智にきかるゝがごとし。無智疑悔、則為永失といふ道あり。是薬草喻ノ文。智必_{シキ(ママ)}しも有にあらず。智必_{シモ}無にあらざれども、一時の春松なる有あり、秋菊なる無あり。この無智の時、三井皆疑悔となる、尽諸法、みな疑悔となる。是時、則為永失なり。所聞すべき道、町證なるべき法、しかしながら疑悔となる。われにあらず、徧界、かくる、處なし。たれにあらず、万里一條ノ鉄なりト。此処ノ文、不易見。

能聞の法、町證の法、共ニ疑悔となるといへども、無智疑悔

の我、すなわち我にあらず。一切諸法疑悔となるといへども、徧界曾藏るゝ所なく、万里一條、鉄團にして穴処なし。如く是法花薬草喻品偈、有智若聞則得信解、無智疑悔則為永失ノ文ヲ以テ、有智無智、信解疑悔、皆會實相ノ如是性相、大中小等根莖枝葉、称其種性、各得生長、一相一味、解脱相、離相、滅相、究竟炎常寂滅相ノ道理ヲ會通シ玉フ。

故、古仏曰、たとい恁麼して抽^レ枝し、十方仏土中、唯有一乘法、たとい恁麼して葉落すとも、是法住法位。世間相當住、雪豆ノ所謂、葉落花開自有時ト云、有時ノ眼目モ是也。古仏曰、既是恁麼事なるによりて、有智と無智と、日面と月面トなり。恁麼ノ人なる故ニ、六祖も發明せり。此六祖も發明せり、の、も字、不可空看過。

終黃梅山ニ参じて、大満禪師を拝するに、行堂ニ投下せしむ。昼夜、米を碓こと八ヶ餘月をふる程に、有時、夜深更闌、大満自ラ竊ニ碓坊ニイりて、六祖ニ問、米白也未^タと。六祖いはく、白也未^タ有^レ篩在と。大満、つへして臼を擊ツ^タ三下するに、六祖、箕に入る米を三度簸る。此時を、師資の道ノ相契ふといふ。自も不知、他も不會なりといへども、傳法衣、まさしく恁麼正當ノ時節なり、と。此段、古仏ノ示教を審細ニ照看セヨ。法花薬草喻品ノ四句ノ偈文ヲ聞テ、有智無智行解疑怪、日面月面、同一自心ナルヲ明シ玉フ。天台智者、法花大師ト称セラル、トイヘども、夢也未見處ナリ。況ヤ、

終教・円教ノ差別ノ見、未^レ亡。賢首・天台ノ判釈を極談ト思ヘル小坊主ノ、不所知。然トイヘども、元古仏ノ宗乗、掃^レ土尽キ、參禪ノ要道を知底ナキ^タ、晨昏是ノミ歎惜す、悲哉。此六祖大師、樵夫ノ為体ニして、仏祖的^テノ正法眼藏ノ法王トナリ玉フヲ、吳本両朝ノ師學共ニ謂ラク、惠能ハ生^テ世^ミノ知識ナリシ故ニ、無所住ノ經言を聞て發明セラル非常ノ祖ナリ。各我等ハ、億^ミ万劫、愚迷ノ凡夫ニして、此一生ニ悟道發明することハ、沙汰ニモ不及^タ。只大願心を發メ、後^タノ生^テ、般若ノ種子を失ハザルベシト云ノミ。嗟悲哉。你等諸人、自己をいかんと返照^シ看ヨ。你ガ言、億^ミ万劫、迷倒シ来ルト云消息ハ、那裡ヨリ得来ルゾ。只盲者ノ、聞ニ隨テ左右スルガゴトク、いまだ目に見ヌ虚言^ト。

上件ハ且置、六祖ノ心ハ、生^テ世^ミノ知識ニして古ク見^タニ、諸人ノ心ハ、億^ミ万劫凡夫ニして^タ醜^テ見苦シキ^タを知リタルカ。諸人ノ心ハ、今マ始メテ出来^タタルカ、六祖已前ヨリ、醜ビ、汚^タ（朽カ）リテアリケルカ。六祖ノ心ハ、何ツ始リテ知識ニハナリケルゾ。前後イカンゾヤ。迷ノ心ト、悟ノ心ト、別ナルカ、同ナルカ。若你ノ心ハ、生々世^ミ迷、六祖ノ心ハ生^テ世^ミ悟ルナラバ、迷ト悟ト定法トナル、是常見外道ノ妄計。如是定リテ轉ズベカラズハ、是断見外道ノ邪思ナリ。六祖ノ心ハ古ク、你が心ハ新キカ。心ニ、新古アルベカラズ、迷悟ノ定メアルベカラズ。故古仏曰、智ハ有念・無念

ニアラズ、有心・無心ニアラズ、いはんヤ、大小乗にかゝはらんや。迷悟ノ論ならんヤ、トなり。尚又、此篇を熟覧せよ。法花ノ文ヲ計テ、有智ト無智ト、信ト疑ト、失ト解ト、われにあらず、徧界かくるゝ処なし。たれにあらず、万里一條ノ鉄なりトノ玉フ。無有餘乗、唯一仏乗、慎諦聴セヨ。トニカク、此ノ心ト云モノハ、何ニ劫ニ始リ、古キモノカ、新キモノカ。悟レル物カ、迷ヘルモノカ、有ルモノカ、無キモノカ、其形段ハイカンナルラン。改メ仕直スモノカ、造作セラレヌモノナルカ。千々万々、クリカヘシ、ハ子（ネ）カヘシテ、返照ソ看ヨ。返照スルモノヲ、心トモ云フベカラズ。故、古仏曰ク、心ノ鳴ハ、風鳴ニあらず、心鳴ハ鈴ノ鳴にあらず、心ノ鳴ハ心ノ鳴にあらず。さらに、たゞいふべし、風鳴なり、鈴鳴なり、心鳴なり、鳴ル鳴トなり。又曰、動者動

なるが故ニ仁者仁なり。恁麼ノ人なるが故ニ恁麼道なり、と曰玉フを参究セヨ。故ニ黄檗「曰」、宜玉自看三遠近是阿誰カ面上事也。

南岳無際禪師、因薬山問、三乘十二分教、某甲粗知、嘗聞南方、直指人心見性成仏、實未明了、伏望和尚、慈悲指示。大師曰、恁麼不得、不恁麼不得、恁麼・不恁麼惣不得、汝作恁麼生。マコトニソレ恁麼・不恁麼惣不得なるゆへに、恁麼不得・不恁麼不得なり、恁麼ハ恁麼をいふなり、別事あるべからず。然モ有限の道得用処トクニアラズ、無限ノ道得用処ニ

アラズ。恁麼ハ、ナニトシテ不得ナルト参学すべし。不得ハ、ナニトシテ恁麼ナルト問取すべし。這尙ノ恁麼及ビ不得、ひとへニ仏事門中ノ法量ニかゝはれるにハあらず。會不得なり、悟不得ナリ。只恁麼なり、不恁麼なり。

曹溪大鑒禪師、因ニ南岳大惠禪師ニ示メ曰、ハタク是什ママ麼恁麼來。此道取ハ、恁麼ハ是不疑ナリ、不會なり。ゆへに是什物なるが故ニ、一切ノ万物、まことに必什麼物なると参究すべし。自己ノ一物、まことニ必什麼物なると参究すべし。什麼物ト云ハ、疑ニハアラザルナリ、恁麼來なり。自来ニアラズ、他來ニアラズ、仏來ニアラズ、祖來にアラズ。況ヤ、地獄來、畜生來ナランヤ、恁麼來なり。

△「恁麼」卷了△

（附記）本書は、あくまで原文の歴史性を重んじ、學術研究資料として翻刻に当るものである。尚、原本の撮影（現在『正法眼藏蒐書大成』統輯本として写真収録・刊行の作業中）及び翻刻を御許可頂いた陽松庵・故加藤良道老師、現董福本高芳老師に対し、甚深なる謝意を表する（編者）。